



おきなわ



作品名：「わんぱくシーサー」（いきいき！かりゆし美術展【特別展】）
作成者：吉田 安雄さん（沖縄市）

目次

- ② **特集** 福祉の仕事は人の生活を応援します
～福祉の人材のすそ野をひろげるために～
- ④ シリーズ記事ふくし＆〇〇～ふくし＆歴史～
「記念企画」沖縄県社協創立 70 周年及び
広報誌『福祉情報おきなわ』200 号
～県社協・広報活動の歴史をたどる～
- ⑤ ニーズに応じた支援を進めるために（日常生活
自立支援事業専門員オンライン意見交換会）
- ⑥ すべての子どもが自分らしく生きるために
（第 68 回九州児童福祉施設職員研究大会
オンデマンド配信）
- ⑦ 生活福祉資金・教育支援資金のご案内、
第 64 回沖縄県社会福祉大会・式典中止のお知らせ
- ⑧ 私たち「新人職員」です（沖縄県社協・職員紹介）
- ⑨ かりゆし長寿大学・オンライン特別講義、介護実習・普及
センター・ミニミニ展示会のご案内
- ⑩ 令和 3 年度共同募金運動が始まりました！、令和 3 年度
中央競馬馬主社会福祉財団助成決定、市町村共同募金
委員会初任・現任職員オンライン研修会（報告）
- ⑫ 図書の紹介、寄付者芳名、表紙の作者のご紹介 他

広報紙「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部に共同募金配分金を充てております。

福祉の仕事は人の生活を応援します

福祉の人材のすそ野を広げるために

ふくしのお仕事入門教室

「福祉（ふくし）」という言葉で何が浮かびますか？

福祉人材研修センターの『ふくしのお仕事入門教室』では、そんな質問からスタートします。

「ボランティア」「お年寄りのお世話」「耳の不自由な人のための手話通訳」など様々なことをイメージするでしょう。

福祉とは、「しあわせ」や「ゆたかさ」を意味する言葉であり、すべての市民に最低限の幸福と社会的援助を提供するという意味が込められています。

英語では、「welfare」「wellbeing」と訳され、well（こころよい、すこやかな）、fare（くらす、やっっていく）、being（生きる、人生）という意味になります。福祉は「快適に生きる」という意味になり

ます。

そして、「福祉の仕事」は、人が快適に生きられるように社会的な支援をすることです。

福祉人材研修センターでは、福祉の仕事を知ってもらうために、「福祉の仕事の魅力」「福祉の職場や職種、資格取得方法等」の紹介や、「仕事内容」「魅力、やりがい」等を正しく知ってもらう機会として、実際に働いている職員による「職業人講話」を福祉のお仕事入門教室として実施しています。

今年度はコロナ禍のために、対面の講話とオンラインでの講話を実施します。職業人講話は、「高齢分野」「障害分野」「児童分野」「保育分野」「地域分野」の5つから選択します。

高校生対象

将来の社会を担う高校生に対し行われているキャリア教育の支援として実施します。

真和志高校みらい福祉科

生徒36名（二年23名、二年13名）に対し、四つの分野（保育分野、障害分野、児童分野、地域分野）を実施しました。

みらい福祉科は、介護福祉士の資格取得を目指して入学した生徒たちです。

卒業した生徒の進路先は様々です。全員が介護現場に行くという訳ではありません。高齢分野以外の仕事のやりがい・魅力等も伝えることで、生徒たちの進路活動の幅を広げ、将来の人生設計に役立てることを目的として実施しました。



講師のお一人、保育分野の大城葉月（ループルこども園統括園長）



真和志高校入門教室の様子

福祉系以外の大学・専門学校等の学生対象

将来、社会を担う学生に対し、福祉の仕事の啓発普及（魅力、福祉の職場や職種、資格取得方法等）を目的に実施します。

学生は、自分の選択した職業に進むために、大学や専門学校で勉強しています。

福祉の現場では、他産業から福祉分野へ転職している方が少なくありません。

他分野の学生に、福祉の仕事との関連や、やりがい・魅力等、福祉の仕事を正しく理解してもらうために、入門教室を実施します。そして、学生の就職活動に活用してもらいます。

福祉のしごと就職フェア2021

11月14日(日) 午後1時～午後4時

コザしんきんドーム（沖縄市諸見里2丁目1-1）

主催：沖縄県、沖縄県社会福祉協議会

問い合わせ先 098-882-5703

コロナ禍において、「福祉の仕事」への関心が高まる中、県内51事業所（予定）の参加を得て、就職希望者に福祉事業所と直接、面談する機会を提供する就職フェアを開催します。福祉の求職希望者の参加を待っています。



キャリアアップへの挑戦

～学生に聞きたい

4. つの質問

福祉職に就きながらキャリアアップのため、社会福祉士の取得を目指す琉球リハビリテーション学院社会福祉士養成コースの学生に、実際の業務や養成校での学びを通して感じていることなどを取材してきました。

設問①「福祉の仕事を選んだきっかけ」

設問②「就職に向けての不安や悩み」

設問③「将来像(目標)やなりたい職種」

設問④「こうあるといいなと思う働き方」

山根夕璃(所属 地方自治体)



① 知的障害のいところだったこと、小学校の頃に聴覚障害者と出会い関わったことから福祉に興味を持った。

「実際に利用者と関わり、様々な制度を学ぶことができる」と先輩に誘われたこともあり、現在、行政の福祉部で働いている。

② 今時点では不安や悩みはあまりありませんが、「福祉の現場は日々勉強しながら相手の支援を考えるんだよ」と言われたので、少し不安ではあるかなと思う。

③ クライエントの気持ちを尊重し、寄り添って支援ができる社会福祉士を目指したい。

④ 地域(民生委員、包括支援センター)、病院、行政等の各関係機関と連携し、利用者への支援を考えていきたい。

問題が起きてから本人を知るのではなくて、地域の一員として見守り等、関わられたらいいと思う。

小宮幹貴(所属 福祉団体)



① 元々、自分が福祉というか、様々な人の力や支援で、人生をより良い方向に歩みだせたことがあり、自分も関わる人を幸せにしていきたいと考え、仕事としてやっていきたいと思った。

② 特になし、為せば成る。

③ 子どもを実際に支援している現場での手伝いを通して、児童に関わる仕事をしたかった。特に発達支援、貧困家庭の支援に関わりたい。

④ 自分を含め、心理的安全性を感じ、ありのままの自分、あなたを受け入れあっている職場であること。

人間関係が良好で自身の成長を大切にすること、周囲への思いやりがあれば良い。

坂本麻美

(所属 地域包括支援センター)



① 人の役に立てる仕事に就きたかった。おじいちゃんっ子だったので、福祉の仕事で介護福祉士という資格があると分かり、母に背中を押された。

② 不安や悩みよりも、やってみないと分からないことと、挑戦したい気持ちが大い。

③ 社会福祉士としてたくさん経験の積んでいきたい。また、災害派遣福祉チー

ムの活動もしているので、社会福祉士として災害現場でも活用できるようにしたい。最終的には、福祉を目指す方の育成に関わられたらいいなと思っている。

応援メッセージ

自身を道具として使うソーシャルワークですから、まずは自分をどう上手く使っていくのかを学び、楽しんで、仕事に活かして欲しいと思います。(豊里教諭)

学院では、修学資金の活用案内や通学時の送迎をはじめ様々な学生支援を行っています。福祉の資格取得等を目指す高校生や社会人の皆様、是非、お気軽にご相談ください。(古御堂事業課長)



お知らせ

沖縄県福祉人材研修センターでは、福祉人材の確保・定着・育成に関する事業を行っています。



沖縄県社協創立70周年

記念企画

及び 広報誌「福祉情報おきなわ」200号

～県社協・広報活動の歴史をたどる～ 《前編》

ふくし & れきし

戦後の混乱が続いていた昭和26年11月、那覇市国際劇場で催された設立総会を機に、沖縄県社協の前身である「沖縄群島社会福祉協議会」は誕生しました。以来、県社協は本県の社会福祉の向上のため各種取り組みを進め、本年11月1日には創立70周年の節目を迎えます。

また、福祉の啓発を図るため、広報誌「福祉情報おきなわ」第1号を、平成3年4月に発行し、約30年にわたり県内外の福祉情報を発信してきましたが、この度、『200号』を迎えることとなりました。

これらを記念し、今号と次号では、『福祉情報おきなわ』をはじめ広報誌を中心に、本会の『広報』活動の歴史を振り返ります。

本県で「初」となる
福祉に特化した情
報紙
「福祉新聞」の誕生

昭和27年4月、琉球政府が誕生し、翌年28年に福祉三法が交付され、沖縄の社会福祉の法体系がようやく整備されてきました。しかし、運用面では、福祉に関する情報不足もあいまって、多くの問題が山積みとなっていました。また、当時の沖縄では、群島社協や民間の福祉施設、当事者団体などが徐々に発足していましたが、福祉情報はまだまだ不足している状況でした。

そこで本会では、昭和29年3月、会の機関誌として「福祉新聞」(タブロイド判4頁)を創刊し、社会福祉に関する



▲「福祉新聞」創刊号
[1954年3月31日水と発行日が左上に記されている]

様々な情報について、関係機関・団体への提供を始めました。当初、本紙は、月刊の予定でスタートしたものの、経費の課題もあり、年間8～10回を発行していました。

なお、創刊号では、当時の本会常務理事兼事務局長の平安常実氏が発行人となり、沖縄朝日新聞が印刷を手掛けています。また、山田有昂氏(当時琉球政府社会局福祉課長)からの創刊に際したお祝いのあいさつをはじめ、「胡差、那覇の児童保護所発展的解消(原文ママ)」や、「売春禁止法の早期制定の要求について」、「東村社

会福祉協議会の福祉活動」など、当時の沖縄の社会福祉の動きや活動状況を紹介しています。

さらに、沖縄群島社協の活動の一つであった「赤い羽根共同募金の運動」実績等が事細かに記されており、福祉事業の発展をめざして運動の『啓発』に力を注いでいたことがうかがえます。

そのほか、日本本土で行われていたお年玉年賀はがきの情報など、県外の動向が説明されていることも特徴的です。

読み手が意識された親しみやすい言葉や、写真を織り

交ぜながら丁寧に書き綴られた本紙は、現在では、当時の状況を知るための貴重な資料となっています。約10年間、計89号にわたり、県内外の福祉情報を届け、その後、その目的は季刊雑誌へと引き継がれていきます。

「報道紙」から「季刊雑誌」へ
「季刊誌」
「沖縄の福祉」の
発刊

「福祉新聞」は、県社協の機関紙としての性格をおびながらも、沖縄唯一の福祉関係の情報を総合する報道紙として、その役割を果たしてきました。しかし、福祉施設や団体がそれぞれ機関紙をつくり、情報を発信するようになると、本会が刊行する本紙の在り方について見直しが求められました。

そこで本会では、沖縄にある様々な福祉課題等を提起し、『みんな』で考え、解決策を見出し、いく場として、質や量をより向上させた『季刊雑誌』へと形を変えることとなりました。昭和39年12月、「沖縄の福祉」(A5版64頁)第1号を発刊しました。

本誌は、福祉新聞に続き、広く寄稿を呼びかけました。学識者や福祉従事者、生活困窮等の当事者、大学の社会福祉研究会等、多様な書き手によって、各立場から実情が伝えられ、課題が提起されました。テーマも多岐にわたり、沖縄の福祉問題を中心に、ときには公害や医療なども取り上げ、見る者の興味関心を促し、好評を得ました。

「立ち上る人々」というコーナーでは、本会が実施していた母子福祉資金を活用し、自立へとつながっていた個別の事例などを紹介しています。苦難や逆境に負けず、道を切り拓いていこうとする人々の背中を後押しするため、ユニークでリアルな内容が盛り込まれています。

この「沖縄の福祉」は、5年

余りにわたって25号まで発行されました。しかし、予算の関係で発行部数が十分確保できないといった課題を抱え、広く住民に社会福祉の実情を伝える必要性がでてきました。また、復帰直前に民生委員制度がはじまり、その活動に必要な情報を望む声等が寄せられる等、社会のニーズに応じながら形を変えて本会の広報活動は続いていきます。

(後編へ続く)

ニーズに対応した支援を進めるために 日常生活自立支援事業 専門員オンライン意見交換会

県社協・福祉サービス利用支援センター(以下「本会」)では、8月30日、日常生活自立支援事業(以下「本事業」)専門員オンライン意見交換会を開催しました。

本連絡会は、日常生活自立支援事業の日常業務等について情報交換や課題共有等を目的に開催し、市町村社協の担当者約60名が参加しました。

本事業は、認知症高齢者や知的障害者、精神障害者等、判断能力が不十分な方を対象に、福祉サービスの利用援助や、それに伴う日常的金銭管理サービスを提供しており、第2種社会福祉事業に位置付けられています。県内では令和3年8月末現在で約700名が利用しています。本会では令和元年度から、本事業を全市町村型へ移行しましたが、これまで利用者の少なかった町村からの新規契約が増加する一方で、コ

ロナ禍における支援の在り方が課題となっていました。

意見交換会では、はじめに本会・センター所長の久根次薫より、本事業の動向・課題と本会の取組みについて説明を行いました。まず、コロナ禍において、利用者との面接や新規相談の訪問面接などが制限されるなどの影響が一部出ていることに対して、オンライン等を活用した面談や、訪問時間短縮など、必要な支援を継続できるように工夫した取り組みを紹介しました。また、本事業から成年後見制度への移行が必要と思われる利用者が一定数いることを指摘し、利用者が円滑に成年後見制度へ移行できるよう、本事業の契約締結審査会の活用や、自治体等の関係機関との連携促進に向けた取組みを進めることを市町村社協へ提案しました。

次に、参加者が数名ずつグ

ループに分かれ、意見交換を行いました。意見交換では、利用者支援や、相談対応時の困難に感じる点や疑問点などを挙げ、それに対してお互いに対応方法やうまくいった取組みなどの共有を行いました。課題では、主に、日常的な金銭管理サービスに関することや、利用者とのコミュニケーションについて、困難さがあげられました。他にも解約時や成年後見制度の活用についても活発な意見が出されました。

本会としては、事業の適正な推進を図るため、市町村社協福祉協議会とともに各種研修会や会議等を通して事業実施体制の強化に取り組んでいきます。



▲上「沖縄の福祉」創刊号

▲下左 原稿募集の欄

▲下右 コーナー「立ち上る人々」

すべての子どもが自分らしく生きるために

支援のつながりを求めて

第68回九州児童福祉施設職員研究大会(オンデマンド配信)

九州社会福祉協議会連合会以下、「九社連」、九社連児童養護施設協議会、沖縄県社会福祉協議会、沖縄県児童養護協議会は、8月2日から20

日までの間、オンライン(オンデマンド配信)により「すべての子どもが自分らしく生きるために」をテーマに、第68回九州児童福祉施設職員研究大会を開催し、九州各県から児童福祉関係者529名が参加しました。

本来であれば、令和2年度に本県において参加者が一堂に会して開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、1年延期を余儀なくされ、さらに参加での開催が難しい状況が続いたため同大会史上初のオンライン開催となりました。

60分から90分を目安に各プログラムを構成し、参加者はパソコンやタブレット等の端末を用いて、研究大会に参加(視聴)しました。

中央情勢報告では、厚生労働省子ども家庭局の末武稔也専門官より、児童虐待や社会的養護の現状に関する報告、改正児童福祉法を踏まえた新しい養育ビジョンの内容について解説がありました。

さらに、全国児童養護施設協議会(以下、「全養協」)の桑原教修会長からは「社会的養育を考える」児童養護施設の立場から」と題して、児童福祉を取り巻く法律や各種計画等について概略説明や社会的養育の特性について講話がなされました。

研究発表は5つのテーマで実施し、研究発表1では「社会的養育推進計画の現状とこれからの施設運営を考える」をテーマに、全養協の桑原会長がコーディネータ

ーを務め、九州各県・市の児童養護施設協議会会長によるシンポジウム形式で議論を交わしました。

その中で、新しい養育ビジョンにある施設の小規模化等については各県ともに職員の確保に課題を持ちつつ、児童のケアに対して一人の職員が背負い込んでしまわないような工夫が必要との声もあがりました。

記念講演では、県内外や国



▲研究発表1の様子



▲平田大一氏

外で演出家・脚本家として活躍されている南島詩人の平田大一氏より「未来へつながる子ども達の夢」をテーマに講話をいただきました。

その冒頭では平田氏が指導する「チーム鬼鷲」と県内の児童養護施設・島添の丘の子ども達による合同チームでの演舞が行われました。平田氏は講演の中で、「舞台ではなく人をつくる」やチーム作りの方程式・リーダーの見つけ方として「面倒見のよいこと」など、わかりやすい語録を交えながら、子ども達との関わり方について語られました。

参加者からは「小規模化・

多機能、高機能化への推進計画を進める中で、ほとんどの県や施設で財政面、人材確保・育成、住まい・拠点の確保等同じような課題が見えた」、「勤務時間や休日数、職員数等がここ数年で良い方向に変化していることを実感する。職員が笑顔で働く環境こそ、子どもを元気にすると、発表であったが、まさにそうだと思った」等の声が寄せられました。さらに、「普段なら研究発表も選択になるが、全ての研究発表を見ることでできた」、「オンライン研修だったため、何度も見直すことができ、聞き逃すことがなかった。オンライン研修の良い点だと思う」等、オンラインならではの感想もありました。

また、本研究大会の配信期間中も新型コロナウイルス感染症の拡大は収まらず、併せて、九州では大雨に伴う水害が発生するなど、落ち着いて参加(視聴)ができる状況になかったため、配信期間を8月末日まで延長しました。

生活福祉資金 教育支援資金のご案内

教育支援資金とは・・・
就学に必要な費用を貸付する
ものです。
お住いの市町村社会福祉協議会で
ご相談いただけます。

対象世帯：低所得世帯(生活保護世帯を含む)

●世帯の所得が一定の所得以下(生活保護法に基づく生活保護基準額の1.75倍以下)の世帯で、必要な資金について他から融資を受けることができない世帯。

対象学校：高等学校、高等専門学校、専修学校、短期大学、大学

貸付利子：無利子

民生委員・児童委員による援助活動

●申し込みから返済が完了するまで、地域を担当する民生委員・児童委員が援助活動(相談等のサポート)を行います。

※他の制度が利用できる場合はそちらを優先いただくこととなります(他法優先)

なお、奨学金等、他の制度の支給開始までに入学金等の支払いが必要な場合や、無利子奨学金の借入のみだと学費の支払いに不足が生じる場合はご相談ください。



＊ 資金の種類と貸付額、対象経費について ＊

資金種類	貸付限度額	対象経費
教育支援資金	高等学校(専修学校の高等課程を含む) 月 52,500円 以内	毎年必要となる費用が対象です。 授業料、施設設備費、教材費、体育会費、実習費、 テキスト・ユニフォーム代、後援会費、通学交通費 など
	高等専門学校、専修学校(専門課程)、短期大学 月 90,000円 以内	
	大 学 月 97,500円 以内	
	就学支度費 500,000円 以内	入学時のみ必要となる費用が対象です。 入学金、校友会費、学生保険料、航空賃・船賃、 引越し費用、敷金・礼金、家財道具購入費 など

【ご相談・お申込み窓口】

お住いの市町村社会福祉協議会がご相談・お申込み窓口となります。

相談窓口は混み合っている場合もありますので、事前の電話予約をお勧めします。

相談窓口の電話番号は、お住いの市町村社会福祉協議会のホームページ、または沖縄県社会福祉協議会のホームページにてご確認ください。 沖縄県社会福祉協議会 民生部(TEL 098-887-2000)

大会メッセージ

わが国の社会福祉をめぐる、少子高齢化や地域におけるつながりの希薄化が進行する中、一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響も相まって、多様な福祉・生活課題が顕在化しそれへの早急な対応を要するなど、重要な局面にあります。

本県においても、著しく増加している生活困窮の問題や、孤独高齢者、引きこもり等社会的孤立の課題は、極めて深刻な状況であり、迅速かつきめ細かな支援が求められています。

一方、コロナ禍でリモートを活用した交流が広がったりすることや、一般県民、企業などから、子ども達や生活に困っている方々へ物資・食料が寄せられるなど、県内各地で様々な支援が展開されています。これらの取組みから、つながりを絶やさないことの大切さを認識するとともに、県民の福祉に対する関心の高まりがうかがえます。

このような状況下、私たち福祉関係者は、制度・施設の充実とあわせて、地域の困りごとに気づき、解決に向けて住民や関係者とともに行動していくことが期待されています。

本大会は、「盛いて行こう、思いやり溢れる優しい社会を」のスローガンのもと、地域でのつながりや支え合い、住民相互の助け合いを進めていくこと、県民一人ひとりが仲良く優しい社会づくりに向けて一歩を踏みだし、支援の輪を広げていくことを目標としています。

今こそ、私たちは能力を結集し、誰もが安心して生活できる、住みよい地域社会をつくるために取り組んでまいりましょう。

令和3年10月20日

第64回沖縄県社会福祉大会

▲大会メッセージ(第64回沖縄県社会福祉大会)

10月20日に沖縄コンベンションセンターにて開催を予定していた「沖縄県社会福祉協議会創立70周年記念第64回沖縄県社会福祉大会」(主催：県、県社協、県共募)は、新型コロナウイルスの感染防止のため、式典を中止いたしました。

大会メッセージを発信するとともに、県知事表彰・感謝、大会長表彰・感謝の授与については、表彰状等を各推薦団体へ送付し、伝達表彰にいたしました。

この度、県知事表彰・感謝は26名・13団体、大会長表彰・感謝は174名・3組・17団体が受賞されました。受賞者の皆様に心よりお祝い申し上げます。

なお、大会の特別座談会(動画配信)については、現在実施に向けて調整を進めていますので、改めて本ホームページにてご案内します。

沖縄県社会福祉協議会創立70周年記念
第64回沖縄県社会福祉大会 式典中止のお知らせ

私たち「新人職員」です！(沖縄県社協の職員紹介)

沖縄県社協では、令和2年度～令和3年度にかけて、新たに4名の職員が仲間入りしました。前号に続きその職員を紹介します。皆様、どうぞよろしくお願い致します！

みんなで一緒に頑張っていきましょう(^^)/

県社協への入職を希望した理由

非常勤職員として勤務をする中で、より深く県社協の業務に携わってみたいとの思いから入職を希望しました。

現在の仕事の内容

沖縄県老人福祉施設協議会・沖縄県身体障害児者施設協議会・沖縄県心身障害児者施設協議会の事務局等を担当しています。

仕事をするうえで大切にしていること

業務で関わる方や一緒に働く職員に困ったことがあった時などに手助けができるよう、気配りを大切にしています。

今後の抱負(一言メッセージ)

皆様のお力になれるよう頑張っていきます！



丸山 美樹さん
(施設団体福祉部)
令和2年9月採用



新垣 隼さん
(総務企画部)
令和3年2月採用

県社協への入職を希望した理由

県民が豊かな暮らしができる事を目標に活動している社会福祉協議会で、会計の面で社協を支える側として、貢献をしたいと思い入職を希望しました。

現在の仕事の内容

会計担当として、お金を管理する仕事をしています。主に日々の伝票処理、業者への支払業務や職員の給与・保険の管理、税金の計算などを行っています。

仕事をするうえで大切にしていること

単純なミスがきっかけで大きな影響を与えてしまう可能性があるため、業務一つ一つに責任を持ち、仕事を遂行するようにしています。

今後の抱負(一言メッセージ)

頼もしい先輩方の元、社協を盛り上げられるように頑張ります！

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

令和3年度

全国200万人
加入!!

保険金額・年間保険料(1名あたり)

保険金の種類		基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額	6,500円	
	手術 入院中の手術	65,000円	
	保険金 外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額	4,000円	
賠償責任	地震・噴火・津波による死傷	×	○
	賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)	
年間保険料		350円	500円

団体割引20%適用済/過去の損害率による割引適用

<基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

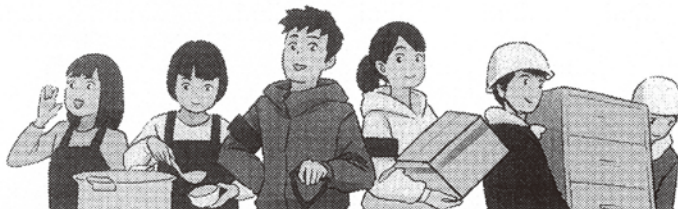
※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

商品パンフレットは
コチラ
(ふくしの保険ホームページ)



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL:03(3349)5137
受付時間:平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
受付時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〈SJ20-12302 2020.12.28 作成〉

沖縄県かりゆし長寿大学校

【オンライン特別講義】

県社協が運営する沖縄県かりゆし長寿大学校では、高齢者に体系的な学習の場を提供し、生きがいのある生活基盤の確立と健康の保持・増進等に役立てるとともに、地域活動の担い手の養成に取り組んでいます。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、学生の皆様の健康・安全を最優先に考慮し、昨年度、今年度と2年連続で休校となりました。

第2回 (限定公開)

【健康長寿の秘訣は笑いにあり】(嘉数世利子講師)
配信日 11月23日～29日

第3回 (限定公開)

【コロナ禍に負けない健康づくり】(宮本晋一講師)
【コロナ禍でのおうちごはん】(喜屋武ゆりか講師)
配信日 12月21日～27日

第4回

【沖縄の世界文化遺産について】(當眞嗣一講師)
配信日 1月18日～24日

こうした状況下においても高齢者を対象とした学習の場の提供や地域活動の担い手養成は重要であることから、今年度は**本校入学予定者等限定**でオンラインを用いて特別講義を開催することとなりました。開講する特別講義は次のとおりです。

第1回 (限定公開)

【琉球のウイルス感染症と医療の歴史】(上里隆史講師)
配信日 10月19日～25日



期間限定!

ミニミニ福祉用具 展示会のご案内

11月11日～
11月30日

【すくいやすい皿】

お皿を斜めにしなくても食べ物がすくえます。



▲すくいやすい皿

傾斜した底で片側が深く(深さ2.5cm)片手でも楽に食事ができます。

【箸ノ助】



▲箸ノ助

ちよっとお箸が使いづらくなった方にもお勧め。おしゃれでシンプル、軽くて使いやすいデザイン

【ひじ掛け付シャワーベンチワイド】

ゆったり座れるワイドタイプ46cm



▲シャワーベンチワイド

立ち座りをサポート長くしつかりしたひじ掛けで立ち座りのとき、身体を安定させることができます。

【お問い合わせ先】

県介護実習・普及センター
電話 098-882-1484
FAX 098-882-1486



令和3年度共同募金運動が始まりました!



助成テーマ

「つながりをたやさない社会づくり～あなたは一人じゃない～」

令和3年10月1日～令和4年3月31日



赤い羽根共同募金

今年も10月1日より始まった共同募金運動は、昨年からのパンデミック下において絶やしてはならない「つながり」を保つため、そしてつながりづくりの財源として欠かせないものとなっており、本県では、2億994万余りの目標を掲げ募金運動を展開していきます。

また、12月14日から公開となるアニメ「劇場版呪術廻戦0」と赤い羽根共同募金がコラボレーションします。これをきっかけにこれから未来を支える若い世代をはじめ、多くの方々へ「赤い羽根共同募金」に関心をもっていただき、支え合い活動を盛り上げることを目的として実施するものです。共同募金を通して地域の課題解決のために活動している団体へ届けられるよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

劇場版呪術廻戦0 赤い羽根ボスター

法人大口 第一号募金贈呈式

毎年10月1日の共同募金運動開始にあたり、「赤い羽根空の第一便伝達式」を実施していましたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、見送ることとなりました。しかし、本運動の気運を盛り上げ幸先良のスタートにするため、法人大口募金第一号贈呈式については、例年どおり実施しました。具志堅グループ琉鵬会様より200万円、沖縄金融協会様より100万円の募金の贈呈が行われ、県共同募金会の湧川昌秀会長より「新型コロナウイルスの影響による生活の困窮など、誰もが住みよい地域づくりのための身近な福祉活動に役立てていく」とお礼のあいさつを述べました。

写真左より琉鵬会の與那嶺清理事、同左から2人目より沖縄県金融協会の上間優会長、同3人目より沖縄県共同募金会の湧川昌秀会長、右より沖縄県共同募金会の山内良章常務理事



▲法人大口募金贈呈式の様子

赤い羽根 空の美ら島便伝達式

10月1日、南ぬ島石垣空港では日本トランスオーシャン航空(株)のご協力のもと、空港スタッフより沖縄県知事メッセージの伝達が行われました。メッセージを受け取った市長代理の高坂正則福祉部長は「新型コロナウイルス禍ではありますが、今年度も多くの方々に賛同され、様々な福祉課題の解決に役立てられることを祈念する」とあいさつを述べられました。また、石垣市共同募金委員会の新田健夫会長より、「市民の皆様には、共同募金運動の趣旨にご理解、ご賛同頂き、沢山のの方々



▲街頭募金の様子



▲空の美ら島便伝達式の様子

のやさしさが支える共同募金に寄付をお寄せいただいたら大変有難い」とあいさつしました。伝達式後には、タウンプラザかねひでにて感染対策を講じながら、街頭募金活動も実施しました。



令和3年度 中央競馬馬主社会福祉財団助成金決定

中央競馬馬主社会福祉助成金は、日本中央競馬会の馬主さん達が、自分たちの手で目に見える形で社会福祉の発展に貢献し、併せて競馬に対する社会の認識を高めることを目的として競馬の賞金の一部を自主的に拠出したものです。県内では、特別養護老人ホームや就労支援施設など8団体に総額717万円が決定しました。

これまでに、総額15億5千721万5千円が県内の団体へ助成され、福祉車両等購入や施設の建築、増築及び各種修繕工事など県内社会福祉事業の基盤整備に役立てられています。令和4年度助成については、来年4月に募集する「民間福祉資金助成要望調査」で仮申請を受け付けますので、本会ホームページでお知らせいたします。



中央競馬馬主社会福祉財団助成決定一覧

(単位:円)

	法人名	事業名	助成額
1	(福)南島会	エレベーターリニューアル工事	1,000,000
2	(福)久仙会	システムキッチン設置及び廻り修繕工事	520,000
3	(福)恩陽会	車両購入事業	1,000,000
4	(福)トゥムヌイ福祉会	車両購入事業	1,300,000
5	(特非)ちゅういたれーいだれーい	車両購入事業	900,000
6	(特非)ていだ与勝	車両購入事業	1,520,000
7	(特非)チャレンジサポート・クローバー	業務用オープン購入	350,000
8	(特非)アルパ	業務用アイロン購入	580,000
			7,170,000



▲オンライン研修(現任)の様子

去る8月27日、共同募金業務に従事する職員を対象に研修会を開催しました。本年度の募金運動や助成業務に関する課題と対応について共通認識を持ち、今後の募金運動の活性化とともに募金実績の向上を図ることを目的としたものです。例年は、集合形式で行いますが、今年度は新型コロナウイルスの感染防止を図るため、Zoomを活用してオンライン形式で開催しました。午前の部では、初任者向けに共同募金運動について理解を深め、当該業務の



▲オンライン研修事務局内の様子

事務手続き等の説明を行い、午後の部では、市町村共同募金委員会の取組を浦添市、宜野湾市、竹富町の担当職員に発表していただきました。運営委員の構成メンバーの工夫や運営委員による職域・法人大口寄付の協力依頼、企業とのコラボレーションによる双方の相乗効果、ボランティア指定校による街頭募金や共同募金ミニ講話・募金箱作りといった、様々な工夫を凝らした取組を行っており、参加された職員にとって、とても参考になったと思います。

市町村共同募金委員会初任・ 現任担当職員オンライン研修会を開催しました



歳末
たすけあい運動

令和3年12月中

歳末たすけあい募金は、新たな年を迎える時期に、支援を必要としている人々が安心して暮らすことができるよう実施している募金です。令和2年度は、募金実績額6千207万5千円余りとなり、コロナ禍にも関わらず令和元年度より280万円余りの増額となりました。県民の皆さまご協力ありがとうございました。

市町村共同募金委員会へ寄せられた募金は、市町村社協を通じて要援護世帯への配分や地域の福祉活動費に充てられ、沖縄県共同募金会へ寄せられた募金は、小規模離島町村の要援護世帯への助成や、児童養護施設入所児童の進学・就職のための自立生活費、障害者福祉サービス事業所などの歳末の行事費として配分されます。今年もご協力よろしくお願ひします。





▲福山グループ様(9.28)

【写真左から2人目】福山商事株式会社
専務取締役 福山 照彰 様
【写真左から1人目】福山商事株式会社
紙業部部長 照屋 喜一郎 様
【写真右から2人目】本会 常務理事 嘉陽 孝治
【写真右から1人目】本会 事務局長 高良 正樹



▲住友生命保険相互会社沖縄支社様(9.14)

【写 真 中 央】住友生命保険相互会社沖縄支社
支社長 岡野 亮一 様
【写真左から2人目】住友生命保険相互会社沖縄支社
職員 滝沢 航太郎 様
【写真左から1人目】住友生命保険相互会社沖縄支社
職員 上原 末子 様
【写真右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1人目】本会 事務局長 高良 正樹

社会福祉ライブラリーから

本の紹介

それしかないわけ ないでしょう

著 者:ヨシタケシンスケ
出版社:白泉社



「ぼくたちが大人になるころは大変なことしかないんだってさ。食べ物がなくなったり、戦争が起こったり、地球が壊れたりする。未来は大変なんだぜ」お兄ちゃんはそう言うけど、それって本当!?落ち込む女の子におばあちゃんはこう言います。「それしかないわけ ないでしょう!未来はたくさんあるんだから」。考え方ひとつで楽しい未来がたくさん見えてくるはず。未来に不安を抱えるすべての人に読んでほしい一冊です。



▲一般社団法人沖縄県軍用地等地主会連合会様(9.28)

【写真左から2人目】沖縄県軍用地等地主会連合会
会長 又吉 信一 様
【写真左から1人目】沖縄県軍用地等地主会連合会
総務主任 喜友名 朝和 様
【写真右から2人目】本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1人目】本会 常務理事 嘉陽 孝治

●沖縄タオル工業株式会社 様

編集後記

今号で200号を迎える「福祉情報おきなわ」。これまでの広報活動を振り返り、『分かりやすい』『親しみやすい』広報誌を考える機会となりました。

※本会への寄付については、税制上の優遇措置が受けられます。
詳しくは総務企画部まで

吉田安雄さん(66)は、定年後に沖縄市の広報誌で見かけたクラブへ加入したのをきっかけに、工芸を始めました。
シーサーの立ち姿を制作するのは手間暇がかかり、作る人が少ないといえます。『わんぱくシーサー』は、4本足で立つ躍動感と、走り回る小学生をイメージし、一般的な怖い顔ではなく、親しみや可愛らしさを表現して作られたそうです。
工芸以外の趣味を尋ねると、料理に映画鑑賞・スイミング・散歩と盛りだくさん!なかでも、料理は「吉田家の味」豚肉料理が多いよ!昨日は中身汁を作ったと、かなりの腕前の様子!!
今は宣言下でクラブもお休み中。再開したら大きなシーサーづくりに挑戦したいとワクワクした声で話してくれました。

表紙の作品

作品名
「わんぱくシーサー」



作成者: 吉田 安雄 さん

寄附・寄贈者芳名 (8月1日～9月30日) 御寄附・御寄贈いただき、誠にありがとうございました。